No.106

愛媛県 青少年赤十字だより

「マインドは、ココロではなく行動に宿る」

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
会長　赤　宗　和　照
（今治市立常盤小学校長）

ドンドン　ドンドン　ドンドンドン！

職員室に一人残って仕事をしていた私の耳に、管理棟通用口の鉄扉を叩く音が飛び込んできました。ぎくりとして壁時計を見上げると、二十一時前。こんな時刻に一体誰…と、恐る恐る廊下に。鉄扉を開けると、そこにはH美が立っていました。急いで職員室に招じ入れ、事情を尋ねました。彼女の口からは驚きの言葉が返ってきました。

自身の担任学級では、日直の仕事の一つに、「終業時の窓閉め・施錠」がありました。H美は、その仕事をし忘れて帰っていたことに夜になって気づき、一人で学校まで来たというのです。昭和の終わり、大卒後初めて勤務したこの学校は、島の小さな小学校でした。猫の額ほどの小さな校区には、当時、街灯などはほとんどありませんでした。六年生の女の子が、懐中電灯を頼りに、一人で夜道を歩くのには相当の勇気が必要だったはずです。私は彼女に、「その気持ちだけで十分。戸締りは日直の先生がやってくれているから大丈夫。さあ、一緒に帰ろう。」と伝えました。しかしH美は「教室に行かせてください。」と動きません。根負けした私は、H美と二人で教室に上がり、彼女のし忘れた日直業務を見守りました。彼女は、自身が果たすべき役割を、黙々とやり遂げました。自身の役割を果たし終えたH美の、清々しく凛とした表情は、今も鮮明に脳裏に焼き付いています。

現任校に校長として着任した際、「TEAM常盤　基本理念」と称して、「マインドは、ココロではなく行動に宿る」を掲げました。「マインド」には、精神、信条、生き方等のニュアンスを込めています。これを掲げた背景には、「青少年赤十字の態度目標『気づき、考え、実行する』」があります。自身は常々、「気づき、考え」と「実行する」の間には、小さからぬ壁があると考えています。そして、この壁を突破できるか否かが結果を分け、ひいては、生き方をも左右する…と。換言しますと、「実行（行動）」してはじめて「気づき、考え」たことが意味を持ち、究極的には「行動」が自身の人格・生き方を規定するのではないかと。例えば、目の前に助けを求めている人がいるとします。「何とかしたい」と思いはするものの行動を起こせないのは、突き詰めますと、無関心な傍観者の行為と同等ではないか…と。その意味で、私の中では「気づき、考え、実行する」と「マインドはココロではなく、行動に宿る」は、同義です。

令和七年三月末、私は役職定年を迎えます。これまでの教員人生を振り返りますと、濃淡はありますが、様々な形で青少年赤十字に関わらせていただきました。その間、私の中には、常にH美の姿が一つの理想像としてあったように思います。四月からは、これまでとは違った立場で青少年赤十字に関わらせていただく予定です。立場や関わり方は異なりますが、「気づき、考え」と「実行する」の間にある壁を突き崩し、新たな時代や価値を開拓・創造できる人材の育成に、少しでも貢献できればと考えています。

《指導者協議会総会・研修会》

四月一八日(木)日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、令和六年度愛媛県青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を開催しました。

対面とオンラインによるハイブリッド形式での開催となった本総会では、事業報告と会計・監査報告に続き、事業計画説明と予算審議ののち、研究推進校による実践報告（伊予市立中山中学校）と推進報告（西条市立三芳小学校）がありました。

研修会では、日本赤十字社愛媛県支部活動推進講師の藤井厚介氏による「青少年赤十字のよさ」と題したご講演をはじめ、日本赤十字社愛媛県支部職員による「能登半島地震における災害救護活動」や体験「ダンボールベッドと簡易トイレの使い方」を実施しました。

《高校生連絡協議会　～春の総会～》

五月二五日（土）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、七校から四八名の参加がありました。

高校生役員メンバーが企画・運営をし、「貧困問題と教育問題」をテーマに、学習とグループワークを行いました。

《リーダーシップ・トレーニングセンター　指導者養成講習会に参加して》

松野町立松野西小学校　教諭　髙橋　かおり

全国から集まった小・中・高校の教職員や日本赤十字社の各支部の方と共に講習を受けました。私は、四HRに属し、指導スタッフの先生の御指導を受けながら、六名の仲間と共に各プログラムに参加しました。最後のプログラムであるワークショップの目的は、青少年赤十字活動の教育的意義を理解し、自校での青少年赤十字活動計画案を作成することでした。立案に向け、必要な知識や情報を得ながら、特別活動主任として、本校の児童にどんな活動をすれば、本校の教育目標の達成につながるかを考えながら講習を受けました。

プログラムの中で、他県での青少年赤十字活動の実践について情報交換をしたり、青少年赤十字活動を学校教育の中へ取り入れる意義について協議したりしました。他県の経験豊富な先生方の実践や各支部の青少年赤十字活動を取り巻く課題や実情などを知る機会にもなりました。

講習会に参加して自分自身が変わったと感じることは、身の回りをよく見て、気付き、行動に移すボランタリー・サービスの精神を心掛けるようになったことです。人のために行動するには、周囲をよく観察しなければなりません。「自分自身を積極的に活かして人と共に生きる」という赤十字の考え方は、主体的に学び、生きる学校教育に結び付くことを、体験を通して学ぶことができました。今後は、立案して持ち帰った計画を基に、本校の教職員と再考しながら、「気づき・考え・実行する」児童の育成に取り組みたいと考えます。

《指導者講習会》

七月二五日（木）日本赤十字社愛媛県支部で、青少年赤十字指導者講習会を開催しました。

今回は十八名の方々にご参加いただき、学校教育において青少年赤十字をどのように役立てることができるかを学習する「学校教育と青少年赤十字」、「防災教育プログラム」、「身近なものでできる応急手当」などのプログラムを実施しました。

～参加者の声～

今治市立乃万小学校　教諭　越智　和枝

私たちが日頃から行っている教育活動のあらゆる場面で、青少年赤十字活動につながるものがたくさんあることを改めて学びました。「気づき・考え・実行する」ことのできる子どもたちを育てるためにも、私自身が心の目で見て、心で感じることを意識して生活していくことの大切さを感じました。

実際に能登半島地震の救護スタッフとして活動された話もとても心に残りました。避難所によって、生活の仕方やその設備も大きく異なり、それぞれの問題点についてもよく分かりました。いつ起こるか分からない南海トラフ地震などがもし起きたら…自分に出来ることや様々な物資などの使い方についても大変勉強になりました。

また、そのようなピンチの場面において大切になるのが、周りの人とのコミュニケーションであることもよく分かりました。今回知らない先生方と課題を解決するために、お互いの意見を言い合ったり聞き合ったりすることで、よりよい方向へ進むことができました。多くの人が不安の中生活するであろう避難所等でも、今回学んだことを生かして、自分自身がリーダーシップをとれるようにしていきたいです。

今、四年生の担任をしており、2学期には〝くらしを守る〟という単元もあります。今回の研修で自分が感じたことを児童にも伝えていけるようにしたいです。

今治市立立花中学校　教諭　合六　梨夏

本校では、毎年5月にJRC登録式を行っており、考え方などを生徒会本部役員が紹介していますが、私は自分が学生だった頃に、赤十字について学んだことがなかったため、ピンと来ていませんでした。ですが、今回の講習会を通し、実践目標が学校生活の中でどのように活かされているのか実感することができました。特に最初の「学校教育と青少年赤十字」でご紹介があった、教育活動の視点に納得し、「これならいろいろ取り組めそう！」と意欲が出ているところです。

防災教育プログラム、避難所体験など、今までやったことがなかったことができて良かったです。学級でも出来そうなことをたくさん経験させていただいたので、持ち帰り、2学期のどこかで実践してみようと思います。

今日一日を通して、自分の意識が大きく変わったことを感じています。青少年赤十字のことをもっとよく知り、学校生活に活かしてみたいです。8月に常盤小で行われる赤十字の今治研修も楽しみになってきました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

《高校生・中学生・小学生合同トレーニング・センター》

八月四日（日）～八月六日（火）松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で開催し、高校生二一名、中学生一名、小学生五名の計二七名の参加がありました。

トレセンでは、青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」を体験しながら、リーダーシップを培うことを目的としています。

初対面のメンバーも多い中、プログラムや生活を通して、コミュニケーションが活発になり、自分のよさを発揮できるメンバーが増えていきました。

～参加者の声～

松野町立松野西小学校　五年　尾崎　羽海

トレーニング・センターでの思い出を書きます。一つ目は入講式です。入場したとき、高校生の人たちからのはく手にびっくりして、少し緊張しましたが、とても感動しました。四日にこれを考えていたと思うとすごいなと思いました。

二つ目はホームルームです。班のみんなや先生の面白いお話を聞いたり、自己紹介をしたりして、おたがいのことを知ることができて、思い出に残っています。

三つ目は入浴です。ここでは、同じ班以外の人のお話を聞けたので、楽しかったです。

四つ目はフィールドワークです。あまり良い点は取れなかったけど、お話したり、協力して謎をといたり、ミッションをクリアしたり、想像していたより倍以上楽しかったです。講評のポイントを足したり引いたりするとき、面白かっただけではなく、正しい行動の参考になったので、心に残っています。

またいつか、ここでもう一回活動したいです。

松山聖陵高等学校　二年　栗田　しずく

青少年赤十字高校生・中学生・小学生合同トレーニング・センターを通して、JRCや赤十字に対する知識を深められたと思います。指示やチャイムがない状況での生活で、自ら観察し、気づき・考え・実行することに気を付けて、早め早めの行動が少しずつできていったように感じました。

一日目は緊張していたけれど、初めて会った人との交流を大切に、この生活に慣れることができました。この合宿では積極的に行動することを目標にしていたため、話し合いの時など多く発言することができました。目標を持って取り組むことで、成長できたと思います。

二日目からは、小中学生も参加して、オリエンテーションでコミュニケーションを取ったけど、フリータイムの時の接し方や、もっとたくさん話せれば良かったという課題も残りました。研修プログラムでは、班で協力して楽しく活動することができたので良かったです。

三日目は、前日よりも周りへの配慮ができ、フィールドワークでは、班で声をかけながら注意深く観察することで、優勝することができ、とても嬉しかったです。課題だった小中学生とのつながりも、フィールドワークなどを通して改善することができ、二日目よりも深い話をして、縦の関係を築くことができました。

この合宿の三日間で、私は様々なことに対して、他人事ではなく自分事として捉え、積極的に行動する力が身についたと思います。また、コミュニケーションの大切さも、より理解することができました。トレセンが終わってからも、三日間で学んだことを生かして、学校や家庭など日々の生活に取り入れていきたいです。成長することができた三日間だったと思います。

第六六回青少年赤十字研究会を終えて

西条市立三芳小学校
校長　野間　浩

十一月一日、青少年赤十字研究会を開催しました。県内から百名を超える学校関係・赤十字関係の皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。当日は、「みよしタイム」（全校縦割り班での防災学習）と三年生（国語科）、五年生（道徳科）の授業を公開しました。

三芳小学校は、一九八二年に青少年赤十字（ＪＲＣ）に加盟しています。この研究会は、過去の第三〇回（一九八八年）のときにも本校で開催されており、今回が二度目の開催となりました。

さて、本校は、研究指定をいただいてからの二年間、「自分の考えを持ち、共に学び合い、主体的に実践する心豊かな児童の育成」を研究主題として取り組んでまいりました。青少年赤十字の理念である「やさしさ・思いやり」を大切にし、「気づき、考え、実行する」ことを意識した学習過程の工夫、学級や異学年での活動・委員会活動の工夫について、研究を進めました。「自分もみんなのためにできるんだ。」という経験を積み重ねることで、少しずつですが、子どもたちの姿に変容が見られています。また、私たち教職員自身も「なすことによって学ぶ」ことの大切さを改めて感じております。

今回、皆様からいただきましたことを基に、これまでの取組を振り返り、今後も更に工夫・改善を図りながら、子どもたち一人一人に「生きる力」を育んでいきたいと思います。

最後に、これまで、ご指導・ご助言いただきました日本赤十字社愛媛県支部の皆様と研究会開催に際しまして、ご支援・ご協力くださいました多くの関係の皆様に、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

研究主題の概要

《研究主題》

自分の考えを持ち、共に学び合い、主体的に実践する心豊かな児童の育成

《研究の方法と内容》

一、青少年赤十字の態度目標を意識した目標・指導・評価の一体化

①実践目標の視点で捉えたクロスカリキュラムの見直し

②態度目標を生かした学習過程の工夫

ア　気づき、自分の考えを持つための手立て

・多様な人・もの・こととのつながりを深める場づくり

・気づかせる「しかけ」「待つ姿勢」の在り方

イ　学びを充実させるための手立て

・学び合い活動の充実

・タブレット端末の効果的な活用

ウ　主体的な実践を促す手立て

・学校外の人の協力と地域との連携を大切にした学びを生かせる場づくり

・実践につながる自己有用感を育む支援の在り方

二、青少年赤十字の理念「人道」を大切にした心の育成

①自他の尊重の意識や他者への思いやりの心を育成する人権教育の充実

②受容的風土を育成する学級・異学年間の活動の工夫

《研究の成果と課題》

青少年赤十字の実践目標の視点で捉えたクロスカリキュラムの見直しや態度目標を生かした学習過程の工夫、自己有用感を高める支援の継続、そして、児童の意見を生かして奉仕の日の活動を見直し、委員会によるボランティアの呼び掛け等をすることで、主体的に活動に取り組む児童が増えてきた。

また、なかよしの木の活動を学級内を超えて学校全体に広げたり、みよしタイムにおける縦割り班で行う集会活動を充実させたりすることで、自他の尊重の意識や他者への思いやりの心を持った児童が育ってきた。

今後は、学校や家庭にとどまっている児童の視野を地域、世界へと広げさせ、地域のため世の中のためにできることを実行できる場づくりを行っていきたい。

研究会報告

西条市立三芳小学校

【公開授業】

○集会活動

「災害時シミュレーション」

「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用し、縦割り班で避難時に必要なものを選ぶ活動を行った。一人一人が避難を自分事として捉え、事前の備えが大切であることを実感できた活動となった。また、お互いの意見をよく聞き、協力して活動することでコミュニケーションの力も育めたようだ。

災害という危機的状況の中で、どのような選択、判断をすればよいか考えるだけでなく、自分の命を守るための事前準備の大切さに触れることで、「健康・安全」の実践目標につなげることができた。

○三年国語科

「まちのすてきをつたえたい」

総合的な学習の時間や社会科の学習とも関連させた学習であった。

書く時のポイントを明確にし、国語辞典などを使い、伝えたいことに合う言葉を探す活動が、相手に分かりやすい文章を書こうという意欲につながっていた。また、グループで読み合い、よいところや付け加えたらよいところを付箋に書いて伝え合う活動を通して、自分の書いた文章をよりよい文章に構成することができていた。

この学習を通して、児童は、自分の住む地域のすばらしさを再確認することができた。

○五年道徳科

「わたしのボランティア体験」

社会に奉仕する喜びを知って、社会に役立とうとする心情を育てることに重点を置いた学習だった。今まで体験したボランティアを振り返った後、ボランティアのよさについてグループで話し合うことで、ボランティアは、周りの人を笑顔にするだけでなく自分も笑顔になることに気づき、自分の考えを深めることができた。

また、地域のボランティア活動の経験者の方から、ボランティアの意義ややりがいの話を聞くことで、人や社会のために何か役立つことをしたいという意欲を一層持つことができた。

【分科会】

○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか

松野町立松野西小学校より、地域とのつながりを生かした様々な教育活動の取組が紹介された。児童主体の児童会活動、学習発表タイム、防災教育への取組について協議した。それらの取組をすることで、児童は青少年赤十字の目的や理念を意識できる活動を積み重ねている。

また、地域とのつながりを生かした実践をする上で、青少年赤十字の考えを生かすことが、教育課程の実践につながることを学んだ。

○第二分科会

児童生徒の健全育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

松山市立姫山小学校は、「考え、話し合って、決めて、実行する」特別活動に力を入れている。具体例として、学級から学年、そして全校へと活動の輪が広がった事案が紹介された。児童は、主体となって活動をしたことで、自信を持ったり、他者を思う気持ちを高めたりした。

こうした児童の前向きなエネルギーを引き出すためには、日々の『特別なことではないこと』を丁寧に行うことが大切であるとの助言があった。

【全体会】

○指導助言　竹村京子指導主事

（愛媛県教育委員会義務教育課）

青少年赤十字の態度目標を教科指導における学習過程等、様々な教育活動の中に位置付け、手立てを明確にした実践であった。

実践を通し、多くの児童が優しい心を持ち、人のために自主的に活動しており、温かい学校づくりに結びついていた。

今後も、人とつながることの価値を実感できる活動を充実させ、赤十字が持つ多彩な資源を積極的に活用することで、教育目標の具現化を行っていってほしい。

○講演　堀江　俊佑　氏

（佑防災企画・製作）

「その防災は本当に命を守れるか」

防災の目的は命を守ることであり、目的を理解せずに、適切な行動をとれなければ命を落とす可能性もあるという観点から、今、行われている防災の問題点を様々な具体例をもとに語られた。

また、実際の避難場所で起こったトラブルや、避難者からの要望への対応について議論するワークショップの紹介もあった。

どんな防災が本当に命を守れる防災なのかを個々人で考えていく必要があることを再認識させられる非常に有意義な講演であった。

《高校生連絡協議会　～秋の総会～》

一〇月二〇日（日）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、六校から三五名の参加がありました。

アイスブレイクの共通感覚ゲームや都道府県クイズでグループの仲を深めた後、役員メンバーによる「赤十字と献血について」の学習と、グループワークが行われました。

グループワークでは、「献血者を増やすために何ができるか？」や「そのために自分に何ができるか？」などを考えました。

《青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会》

一一月一六日（土）日本赤十字社愛媛県支部及びオンラインで開催し、青少年赤十字や赤十字奉仕団等から総勢一三八名の参加がありました。

大会では、「アジア・大洋州災害対応衛生給水キット」整備のための一円玉募金（大会当日受付分：一〇二，一七六円）の贈呈や、長年、活動を続けている学校・指導者の表彰、西条市立三芳小学校や高校生連絡協議会施設訪問実行委員、愛媛県青年赤十字奉仕団連絡協議会、宇和島市赤十字奉仕団の活動報告がありました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

《指導者中央講習会に参加して》

今治市立鳥生小学校　教諭　山川　義弘

私は、一一月四日に日本赤十字社本社で行われた講習会に参加しました。青少年赤十字が一〇〇周年を過ぎて新たな時代を進み始めた今、学校現場にはどのようなことを求められているのかを知り、今後の教育活動に生かしたいという思いで参加しました。

講話の中で、来年の大阪・関西万博では、日本赤十字社のパビリオンも準備が進められていると聞きました。相次ぐ自然災害、国際紛争、流行り病…世界を取り巻く課題が多くある今こそ、「人間を救うのは人間だ。」という言葉の重みを感じました。未来を切り拓いて行くのも人間です。今の時代だからこそ、困っている人に対して優しさや思いやりを持って接することのできる児童生徒を育成することが、私たちにはより一層求められていると思いました。そこで、青少年赤十字の態度目標「気付き・考え・実行する」を学校のあらゆる教育活動の中で取り入れ、明るい社会をつくっていくために微力ながら力になりたいと思っています。

今回の講習会で他県の先生方と話す中で、青少年赤十字に対する教員間の温度差についての悩みはどこの県にもあるのだと分かりました。「青少年赤十字＝めんどうなもの」という意識をなくすためには、自分ができることからどんどん実践し、広めていくことからだと思いました。学んだことをこれからの教育活動に生かしたいです。

《「Think glocally!」赤十字国際ワークショップ２０２４》

国際理解や多文化共生について理解を深めていただくことを目的として、県内の高校生を対象に初開催した本ワークショップには、松山市を中心に様々な学校から四五名の参加がありました。

講師には、特定非営利活動法人　松山さかのうえ日本語学校　代表理事　山瀬麻里絵　氏と、同法人にて活動をしている外国人スタッフ（アジア・アフリカ・ヨーロッパ）の方々をお招きしました。

参加者は、講師や外国人スタッフとの相互コミュニケーションを通して、日本と外国の文化や環境の違いなどを感じていました。

いま世界中で起きている戦争や紛争、気候変動による自然災害、貧困など様々な問題にも目を向けるきっかけにしていただくことを期待しています。

《青少年赤十字指導主事対象研究会に参加して》

東予教育事務所地域教育推進課　指導主事　尾田　生馬

一月十日に日本赤十字社本社で開催された、研修会に参加させていただき、学校教育の中で青少年赤十字の活動を行う意義や、具体的な活用事例を学ばせていただきました。

本研修を通して、特に印象に残ったのは、赤十字の理念である「人道」についての学びです。「人道」とは「人間の生命は尊重されなければならないし、苦しんでいるものは、敵味方の別なく救わなければならない」と示されており、青少年赤十字活動の柱である、

トレセンの活動や、防災教育も、「人道」の理念に基づいていました。様々な状況で起こりうる正解のない課題に挑む中で、命の大切さを学び、自分で考え判断して実践する力を身に付けながら成長していく子どもたちの姿を目の当たりにして、「人道」の理念を全ての子どもたちに伝えていかなければならないと考えました。

「人道」は、誰もが理解していることです。しかし世界に視野を広げると、大規模な戦争で多くの命が失われる「人道」とは真逆な日常があるのも事実です。このような中で、子どもたちに、現実から目を背けることなく、人の命を尊重し、自分で考え判断して実践する「人道の精神を大切にした生きる力」を育成することが重要です。

今後とも、「人道」に基づいた教育活動を推進していきたいと思います。

南予教育事務所地域教育推進課
社会教育主事　菅原　恵

一月一〇日、指導主事対象研究会に参加させていただきました。たくさんの学びがあった中で、私の学びのキーワードは、「つながり」です。

一つ目のつながりは、青少年赤十字（ＪＲＣ）と第四期教育振興基本計画（令和五年六月閣議決定）や学習指導要領です。これら二つには、ＪＲＣの実践目標と態度目標に通じるキーワードが随所に書かれています。ＪＲＣが特別なことではなく、地域社会、学校教育が目指すところとつながっていることに気付きます。

二つ目のつながりは、赤十字社が提供するプログラムと学校での教育活動です。赤十字社には、防災教育などの重要なプログラムがあります。リーダーシップトレーニングセンター（トレセン）などのプログラムで培った力を学校教育で生かすこともできると思います。普段行っている教育活動と赤十字社のプログラムをつなげて考えることで、教育効果の高まりが期待できます。

「つながり」というワードは、第四期教育振興基本計画に、「人とのつながり」「学校や地域でのつながり」と書かれており、教育において重要な要素です。つながりに気付き、つながりを考え、つながりを大切にすることを学んだ研究会でした。

《青少年赤十字スタディー・センター》

三月二二日（土）～二六日（水）山梨県山中湖村「東照館」で開催され、県内高校生メンバー二名が参加しました。

～参加者の声～

愛媛県立松山南高等学校　一年　門屋　茉奈美

私は、今回の４泊５日のスタセンに参加して本当に多くのことを経験し、学びました。最初は、スタセンでの「指示のない生活」に慣れませんでしたが、次第に自分たちで気づき、考え、実行できるようになりました。

１番印象に残った「自己理解・自分発見から自己改革への挑戦」では、自己理解では他者が必要であり、いろいろな人と関わり合い、自分を知ってもらうことで自分では気づかなかった一面にも気づくことができるという事を学びました。今までの自分の考えとは違った角度からの見方があると知って客観的に物事をとらえる事ができ、今後の人間関係に活かすことができると思いました。

日本では、戦争体験のある人が減ってきています。そして、戦争に対して無関心や無知な人もいて、それは悲しいことだと感じます。私たちは、決して忘れてはいけない、そして繰り返してはいけない、この事実を１人でも多くの人に興味や関心を持ってもらう事が大切だと考え、想像力を働かせて、未来の人に戦争の恐ろしさを伝えていかなければなりません。

スタセンに参加したことで、日本の課題、世界の現状など多くのことについて学びました。そしてこれからは、物事をより客観的に考え、スタセンで学んだことを活かせるように努力していこうと思います。

松山聖陵高等学校　一年　宮内　琢守

私は、今回の４泊５日のスタディーセンターで「理想のリーダーとは何か」を自分の中での疑問点とし、そのリーダーになるにはどうすれば良いかを考えながら生活しました。

５日間を通して様々な授業を受けましたが、全体を通してまとめる力を持つ事が大切だと思いました。７～８人が１班となり活動するので、話し合うだけではなくその意見をまとめ、納得いく形にするという事が必要です。なので私は話の中心となり、意見をまとめるという事を頭に入れて話し合いをしました。

また、コミュニケーションの大切さにも気付きました。全国から多くの人が集まっているので、方言などの違いで上手く意思の疎通ができないという事が最初は多くありました。しかし、話す時にお互いの自己開示をし、相手のことや言葉を知っていく事で段々と分かっていきました。

赤十字について知ることでもそこから今自分に何が足りていないのか気づき、ならば足りていない部分をどうするのかを考え、その考えた事を実行する事が出来ると考えました。

このスタディーセンターでは赤十字の事だけではなく、日々生活していく中で重要な事を知る事ができ、自分を大幅に成長させる事ができました。携わってくださった先生方、関わってくれた仲間達との出逢いに感謝し、今回学んだ事を日々の生活で活かしていきたいです。

令和七年度　事業計画

四月
県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）

五月
第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
高等学校指導者協議会（日赤支部）
高校生連絡協議会　～春の総会～（日赤支部）
トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）

六月
賛助奉仕団総会（松山市内）

七月
全国指導者協議会総会・研修会（東京都）
全国賛助奉仕団協議会（東京都）

八月
レベルアップセミナー（松山市内）
指導主事対象研究会（東京都）
小中高合同トレーニング・センター（松山市内）
第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）

一〇月
高校生連絡協議会　～秋の総会～（日赤支部）
青少年赤十字国際交流事業（東京都）

一一月
第六七回青少年赤十字研究会（松野町立松野西小学校）
中・四国ブロック賛助奉仕団協議会（高知県）
青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会（松山市内）
中・四国ブロック指導者協議会（岡山県）

二月
第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）

三月
高校生スタディー・センター（山梨県）

【お知らせ】

愛媛県教育研修センターが実施する、キャリアアップ研修Ⅱ及びⅢにおいて以下の行事が選択可能になりました。

①青少年赤十字レベルアップセミナー　～授業で役立つプログラムを体験しよう～
　日程：８月１日㈮　　会場：日本赤十字社愛媛県支部
②第 67 回青少年赤十字研究会
　日程：11 月７日㈮　　会場：松野町立松野西小学校

発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40
TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160
http://www.ehime.jrc.or.jp/
（発行日　令和7年3月31日）

令和6年度
青少年赤十字加盟状況

校　種	校　数	メンバー数
幼稚園・保育所・こども園	58園	6,885名
小　学　校	171校	42,485名
中　学　校	52校	12,382名
高　等　学　校	13校	868名
計	294校	62,620名